

Focus Fan ファン

Vol.4
2024.January

久工大だより



Focus
特集 1

就活座談会「自分なりの動き方で志望の内定獲得!」

機械システム工学科 4年 仲本 長尚さん
建築・設備工学科 4年 横口 美祝さん
教育創造工学科 4年 古賀 優香さん

交通機械工学科 4年 平野 智哉さん
情報ネットワーク工学科 4年 山崎 大輝さん

Focus
特集 2

就活スケジュール 「内定を決めるまでの4年間の道のり」

建学の精神

人間味豊かな産業人の育成

教育の基本理念

知を磨き、情を育み、意を鍛える

就活座談会

自分なりの動き方で志望の内定獲得!

コロナ禍収束に伴って多くの企業の業績もV字回復に向かい、新卒採用枠も拡大傾向にあるようです。とは言え、有名企業・人気企業の内定を獲得するためには、相応の努力が必要です。そんな中、晴れて第一志望の企業から内定を受けた2024年卒業予定の5人に、内定獲得までのそれぞれの取り組みとポイントを聞きました。



機械システム工学科 4年
仲本 長尚さん
(なかとも まさのり)
八重山商工高等学校 出身

不二精機株式会社 内定
仲本さんが内定を受けた「不二精機」は、コンビニ等で販売されているおにぎりを製造するマシンの製造・販売、国内トップシェアを誇る企業。新しい機械を生み出すことに魅力を感じました。



交通機械工学科 4年
平野 智哉さん
(ひらの ともや)
福岡工業高等学校 出身

川重岐阜エンジニアリング株式会社 内定
航空機に関心を持っていた平野さん。航空機の最先端技術を通じて人々に感動を与えるような航空機の設計に携わりたいと考え、「川重岐阜エンジニアリング」からの内定を獲得しました。



建築・設備工学科 4年
横口 美祝さん
(ひぐち みのり)
佐土原高等学校 出身

ダイダン株式会社 内定
建築設備に興味を持ち、調べていく中で施工管理職について知ったという横口さん。インターンシップを通して、電気や空調設備、給排水設備などを手がける「ダイダン」の内定を得ました。



情報ネットワーク工学科 4年
山崎 大輝さん
(やまさき たいき)
天草高等学校 出身

ローム・アボロ株式会社 内定
出身地である熊本には半導体関連の企業が多いことから、業種を絞って説明会に参加した山崎さん。トランジスタ及びダイオードなどの開発、製造を行う「ローム・アボロ」の内定を受けました。



教育創造工学科 4年
古賀 優香さん
(こが ゆうか)
八女学院高等学校 出身

福岡県教員(中学理科) 合格
判りやすく教えてくれる先生と出会ったことで、理科が好きになったという古賀さん。自分自身も理科の面白さを伝えられる教員になりたいと考え、教員採用試験にチャレンジし、合格しました。

就活の動きを本格的に始める前から『情報』を仕入れておくべき

—最初に、皆さんが本学への入学を決めた理由は何でしょう。

仲本 高校卒業後は就職しようと考えていたのですが、高校2年になった頃から大学で学ぶことに魅力を感じ始めました。本学には沖縄県出身者向けの補助制度や奨学金があり、頑張って勉強すれば学費免除に手が届きそうだったこともあって決めました。

平野 私も工業高校で電子工学を学び、卒業後は就職を考えていました。しかし、大学の卒検模試のようなものを受けたのがきっかけとなり、航空機について学びたいと考えるようになりました。複数候補の中から本学を選びました。

横口 私は工業高校で、情報系を学んでいたんです。でも、学ぶほどに「私は情報系のタイプじゃない」と感じるようになりました。以前から興味を持っていた建築分野を大学で学びたいと考えるようになったのがきっかけです。

山崎 私の出身地の熊本は半導体関連の企業が多いエリアなのですが、世界最大手の半導体メーカー「TSMC」の熊本進出が決まってからは、半導体の話題で持ちきりです。そのため高校在学時から、半導体を含む電子機器について大学で学びたいと考えていました。

古賀 私は中学2年生の頃から、学校で理科を教える教諭になりたいと考えていたので、地元に近い場所でもありますし、理科・数学の教員を養成する本学の教育創造工学科を選びました。

—就活で心がけたことや、いつ頃から動き始めたかを教えてください。

山崎 3年生の6~7月頃から、就活情報サイトなどをを利用して情報を集め始め、就活をどのように進めていくのか、具体的

なイメージを持つように心がけました。

古賀 私の場合は県の教員採用試験なので、具体的に動き始めたのは4年生になってからです。ただ、採用試験に合格した先輩方の、合格体験講座には積極的に参加しました。特に、元校長先生が講師の採用試験対策講座があることを聞いていたので、それには必ず参加しようと決めていて、しっかり受講しました。

横口 私は3年生の5月くらいから本格的に動き始めました。気になっていた企業の、インターンシップへの参加希望を確認するメールが就職課から来たタイミングです。心がけたこととしては、建築・設備工学科の先輩と仲良くなったタイミングで、いつ頃から就活活動を始めたかなど、色々と話をうかがったことです。

平野 私は、大学入学前から航空機関連企業への就職を目指していたので、大学2年生の後期から、研究室の先輩に就活に関して積極的に尋ねたり、就活情報アプリなどを頻繁にチェックしたりしていました。

仲本 昨年2月、2024年卒向けの「合同業界研究セミナー」が学内で開催されたのですが、本格的に動き始めたのはその時からです。心がけたことは特に無いのですが、面接の受け答えについては、ある程度練習しましたね。

自身の興味や関心事を大切にしながら全力で挑戦したい志望先を決める

—内定を受けた会社に注目した理由と、採用に向けて努力したことは。

横口 大学入学後、「施工管理職」について知り、施工管理士を志望することに決めました。複数の会社のインターンシップに参加しましたが、見えないけれど非常に大事な、空気口など衛生部分に取り組んでいるダイダンが最も魅力的に思いました。インターンシップへの参加は、私にとっては勇気がいる





ことだったので、就職課には毎日のように通い、文章の書き方などを練習しました。

平野 コロナ禍真っ最中の頃、医療従事者に感謝の気持ちを示すため、ブルーインパルスが都心の空を飛行したニュースを目にして、飛行機は人や荷物を運ぶ以外に、人々に感動を与えることができることを知り、目標を内定企業に絞りました。配属前から研究室に積極的に足を運んで早めに研究に参加し、直接で突っ込んだ質問をされてもきちんと対応できるようにしました。

古賀 私は、中学時代の理科の先生のおかげで理科が好きになったのがきっかけで、中学理科の教諭を目指すことにしました。採用試験合格に向けて努力したことは、人前で緊張せずに、きちんと話せるように練習したことですね。教育実習などで緊張することは無いのですが、相手が先生や面接官だと、緊張して大事な部分を端折ってしまったりして。そこを何とか克服するために、先生方や母に見てもらいながら練習をしました。

仲本 私はモノづくりや工作などが好きで、内定を受けた不二精機も、おにぎりマシンの分野ではトップシェアメーカー。「新しいものを考え設計する」という業務内容や、隠れた顧客ニーズを調査するため、技術職者が実際に現地に出向くこともある点などに惹かれました。採用に向けて努力した点は、面接できちんとした受け答えができるよう、イメージトレーニングをやったことですね。

山崎 私も面接でベストを尽くしたかったので、学内のキャリアサポートセンターを活用する際、就活サポート情報は逐一を通して、マナーや自己PRのやり方など、プロの教えを学びました。内定企業に注目した理由は、最も関心を持っていた情報系システム関連だったからです。



学内の就職支援制度を有効活用すれば 弱点が克服できて就活を有利に進められる

—大学の就職支援制度を、どのように活用しましたか。

平野 履歴書作成などの基本講座です。企業の採用担当者は数百人分の履歴書に目を通すはずなので、注目されやすい履歴書を作成するためには、ネット上の例文ではダメだと思ったのです。基本講座を受けながら、他の求職者とちょっと差が付くような書き方を工夫しました。

樋口 毎日のように就職課に通い、文章添削をお願いしていた時期がありました。そのおかげで自信が湧き、インターンシップで他大学の就活生たちとの交流を通じて“もっと頑張らなきゃいけない”という刺激をもらいました。

仲本 私は、インターンシップの旅費支援を一度活用させてもらいました。それから、学内の「ものづくりプロジェクト」に参加していたおかげで、会社説明会で動画の資料を見せられたとき、“モーターの動力をこうやってマシンの動作に変えるのか”など、理解が深まりました。

古賀 私は教員採用試験の大学推薦制度です。それから、2次試験での模擬授業の過去問を自分なりに考え、先生に見てもらいながら何度も練習しました。「支援制度」ではありませんが、放課後学習会のボランティアにも積極的に参加して、教え方や子供たちとの接し方を学びました。



山崎 就活サポート講義は必ず参加し、面接サポートを利用して自信をつけました。私は面接の受け答えの際、話す内容をあらかじめ決めていたら固くなってしまうタイプだったんです。そこで、話したいことをリストにまとめて、自然体でやり取りできるようにしました。

—最後に、本学の後輩たちにアドバイスを。

仲本 沖縄出身の大学生は、地元に戻る子と本土に残る子とに分かれなんですが、後輩たちには本土と沖縄のインターンシップに参加して、両方の“空気感”を知った上で決断してほしいと思います。

平野 学生時代はもちろん勉強が一番大切ですが、座学や基礎的な素養は1、2年のうちに修得して、その後は実際に「触る・作る」といったことに力を入れた方が、志望先を決める際にイメージが持ちやすいと思います。

樋口 早めに内定を得られるように、早めに動き始めることが肝心だと思います。私は時間が浮いた分、札幌と沖縄、韓国に旅行に出かけて見聞を拡げました。

山崎 色々人の意見を聞く姿勢を持つよう心がけてください。私もそうですが、生真面目なタイプの人は自分1人の思い込みに囚われやすいので、他の者の意見を取り入れつつ自分の考えをまとめ、その上で一生懸命に行動を起こすことが大切だと思います。

古賀 教職員を目指している後輩たちは、今の子供たちを取り巻く環境などに対して、いつもアンテナを張っておくように心がけてください。それから、教育実習の前にはとにかく、出来る準備を早めにやっておくことがコツだと思います。



就活スケジュール

内定を決めるまでの4年間の道のり

就職活動とは、社会における自分のポジションを探すことです。自分にとってのベストポジションを見つけるには、自分がどういう人間で、何を求めているのかが分かっていなければなりません。そのためには、「自己分析」「業界・企業研究」「エントリーシートや筆記試験による書類選考」「面接による選考」など、就職活動の流れを十分に理解して、早い時期から計画的に行動し、準備を整えて自分自身を企業に売り込むことが重要になってきます。



工学部1年生・2年生

- 低学年指導 1年・2年では学科別必修科目でキャリア教育を実施。
- 学内外の説明会・セミナー等による情報収集
- インターンシップ

工学部3年生、大学院1年生

3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
【自己分析】	これまでの経験を通じ自分の志向や興味を掘り下げ、自身について深く考えましょう。											
【自己PRの準備】	志望企業の内定を勝ち取るために書類や面接で自分の魅力を最大限に伝えることが大切です。											
【マナーの習得】	社会人とのコミュニケーションには、まず、第一印象が大切です。											
【業界・企業・職種研究】	最初はあまり業界や企業を絞り込みすぎずに情報収集し、自分の興味・関心、キャリアプランを考えながら絞り込んでいきましょう。											
【インターンシップ(就業体験)】	インターンシップは企業や仕事の実際を知る絶好の機会ですので、積極的に参加しましょう。											

工学部4年生、大学院2年生

3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
【企業へのエントリー】	興味のある企業には、なるべく早めに就職情報サイトや企業のホームページからエントリーしましょう。											
【会社説明会・会社訪問】	会社訪問・工場見学で現場を知ること、事業内容や職種を確認するチャンスです。											
【エントリーシート・履歴書の提出】	エントリーシートや履歴書は、いわば選考の第一関門。採用担当者に「会いたい」と思ってもらえるようにしっかり練り上げましょう。											
【筆記試験】	事前に問題集などに取り組むことで、ある程度対策することができます。											
【面接試験】	面接はだれでも緊張するもの。面接試験は対面形式やオンライン形式がありますので事前に面接練習を行いましょう。											
【内定(正式内定)】	内々定をもらったら、先ず企業にお礼のメールや電話をしましょう。											

※2025年3月卒業予定者の例です。
※この就職活動スケジュール例は、政府が定めた就活ルールをもとに作成しています。
企業の採用活動計画は毎年検討されるため、あくまでも参考とし、企業の動きを見極めながら就職活動を進めてください。

工学部3年生
大学院1年生

4月～1月：課外就活セミナー

9月：学科別進路面談会 TOPIC1

4月～7月：就業力実践演習(3年生必修科目)

2月：学内合同業界研究セミナー TOPIC2

工学部3～4年生
大学院1～2年生

1月～11月：学内単独業界研究セミナー、学内単独企業説明会

選考から内定までの流れ

① 企業説明会・セミナーへ参加

各企業が開催する説明会(合同・単独)に参加して、企業の情報を収集する。

② インターンシップへ参加

興味を持った企業で就業体験を行い、企業について研究する。

③ 履歴書・エントリー・シート提出

自己PR・志望動機など、早い時期から自己分析や企業研究を行っておく。

④ 面接・筆記試験

面接対策・筆記試験対策を行っておく。

内々定・内定

■ インターンシップ 第5回「社長のかばん持ち体験」

「社長のかばん持ち体験」は、本学と筑後信用金庫との連携支援事業です。通常のインターンシップや仕事体験と異なり、学生が地元中小企業の社長または経営幹部と行動を共にすることで、普段は聞くことができない会社の経営理念や手法など、経営の最前線での体験を通して、地元中小企業の良さを知る機会にも繋がります。今回第5回を迎えることができ、6名の学生が参加しました。

8月の事前準備研修会では客室乗務員養成学校によるビジネスマナーを学び、今後の就職活動にとても役立つ内容でした。その後学生は地元企業6社において2日間の派遣研修を実施。10月・11月には報告会に向けたプレゼンテーション研修会及び練習会を行い、12月7日(木)に本学100号館内において報告会を実施いたしました。

学生6名は社長の言葉の重みを受けとめ、所作等を学び、実体験を通じて感じたことを報告書にまとめ、一人5分ほどの発表を行いました。関係者40名を前にして、学生からは緊張感が伝わりましたが、全員素晴らしい内容で見事大役を果たしました。

今回の「社長のかばん持ち体験」に参加した学生は、これから就職活動につながる貴重な体験になりました。



参加学生	学科	学年	受入企業
西村 悠希	機械システム工学科	2	(株)シマブン
服部 陽大	機械システム工学科	2	(株)九州栄電社
中島 育斗	情報ネットワーク工学科	2	(株)アイナックシステム

参加学生	学科	学年	受入企業
平川 拓磨	建築・設備工学科	4	久留米建設(株)
杉本 旭	教育創造工学科	2	クワトロデザイン(株)
萩尾 優一	機械システム工学科	2	(有)宮田電機製作所

TOPIC1 令和5年度「学科別進路面談会」を開催しました

令和5年11月25日(土)に工学部3年生及び大学院1年生を対象とした「学科別進路面談会」を開催し、保護者156名、学生167名が参加されました。

進路面談会では、全体会の中で外部講師による“保護者と学生の就活講座”をオンラインで実施し、就職活動の現状の話を保護者・学生共に真剣に聴いていました。その後、学科毎に学生・保護者・教員による三者面談を行い、学生の希望に応じてこれからの就活支援について指導を行いました。

今回、参加されませんでした保護者(工学部3年生、大学院1年生)の皆様には、就職関係でご不明な点がございましたら就職課までお問い合わせください。



多くの企業に会えるチャンス! 参加しないと損しますよ!!



TOPIC2 2025年卒「学内合同業界研究セミナー」を開催します!

就職課では2025年卒業予定者(工学部3年生・大学院1年生)を対象とした「学内合同業界研究セミナー」を開催します。

今回は地元をはじめ全国より、久留米工業大学の学生に入社してほしいという大手企業・中小企業が150社程参加されます。本学の学生のために多くの採用担当者が来場され、直接いろんな情報を提供されるといった企業研究に役立つ情報が盛りだくさんのイベントとなります。皆さんのご参加をお待ちしています。

開催日程	令和6年2月7日(水)・8日(木) 13:00~16:00
参加企業	約150社(1日75社) ※2日間異なる企業が出展!
場所	ホテルニュープラザ久留米
申込方法	直接就職課窓口、またはメールでお申し込みください。
参加対象:工学部1・2・3年生、大学院1年生	

◇就職活動に関するることは就職課(キャリアサポートセンター)へ。

100号館2F TEL.0942-22-2272(直通)

E-mail:shushoku@kurume-it.ac.jp <https://www.kurume-it.ac.jp/shinro/>

就職活動についての詳しい内容は
ホームページにて



久留米工業大学
学長
今泉 勝己



新年にあたって

本年が皆様にとって実り多い一年となることを願っています。

中教審のこれからの時代を担う人材の育成に関する検討を受け、政府の教育未来創造会議は「我が国の未来をけん引する大学等と社会の在り方について」の提言において、デジタル、人工知能、グリーンなど成長分野をけん引する高度専門人材育成に意欲ある大学等の取り組みを5~10年程度の期間、集中的に支援することとしました。

本学は令和5年度、この支援事業のうち「学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援(支援1)」及び「高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援(支援2)」に選定されました。このダブル選定は、全国で7大学、九州では唯一の大学です。本学の教育は、地域課題解決に関して、企業や地域が積極的に関わる仕組みに特徴があり、企業等の参画は、令和4年度10、令和5年度14プロジェクトに上ることも選定の要因と言えます。

支援1に対しては、情報ネットワーク工学科の入学定員を20名増(90→110)とし、AI・データ分析×well-being工学による地域社会が抱える様々な課題の解決に貢献できる地域DX人材の育成にむけて、地域課題解決型AI教育プログラムを中心としたデータ分析の基礎的素養とコミュニケーションスキルを学修する科目群で構成するコースを新設します。

支援2に対しては、大学院電子情報システム工学専攻の入学定員を段階的に15名増(5→10→20)とし、大学院における深化したPBL(Project Based Learning 課題解決型学習)の継続やメタバースラボを用いたシミュレーション等を通して、AIやデータ分析(DA)の応用技術の修得及び企業・自治体等と連携したアクティブラーニングによる高度情報専門人材を育成します。

本年も教育環境・学生支援の充実に努めてまいりますので、皆様のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げ、年頭のご挨拶といたします。

新年のご挨拶



新年あけましておめでとうございます。皆様方におかれましては、輝かしい新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。また、日頃より、後援会活動につきまして、ご理解・ご協力を賜り感謝申し上げます。

さて、コロナが終わった訳ではございませんが、世界的に流行した「パンデミック」の状態から、感染が地域の中で一定のレベルに落ち着いて5類扱いとなりました。それに伴い、後援会活動も徐々に再開し、9月には「保護者懇談会」を全面対面にて実施し、子供の学業・就職状況等について、直接在籍する学科の先生から話を聞くことが出来、大変充実した懇談会であったとの意見を多くお聞きした次第です。

これからも大学と協力し、子供たちが有意義な学生生活を送れるように努めていく所存でございます。

この新しい年が、よりよき年となりますよう心より祈念いたしまして保護者の皆様への挨拶とさせていただきます。

久留米工業大学 後援会会长 神山 久王

| 機械システム工学科

■■ 機械デザインコース ■■ ロボティクスコース



機械設計技術者試験3級取得のススメ

当学科では、資格取得の一つとして機械設計技術者試験3級を推奨しています。機械設計技術者試験とは、一般社団法人日本機械設計工業会(<https://www.kogyokai.com/>)が実施・認定する技術力認定試験で、国家資格といった公的なものではありませんが、機械設計を行っている企業等で評価され、取得者には資格手当給付を行う企業もあります。試験は1~3級に分類され、1級と2級は実務経験を有する企業技術者の機械設計能力を認定しますが、3級は実務経験の無い新人技術者や学生の知識や技術水準を認定します。このため、3級は1・2年生で学習する専門科目全般の基礎的知識が出題されます。当学科では主として3年生を対象に3級試験対策講座を開講し、昨年度は2名の合格者を輩出しました。また、これは就職活動を間に控えた3年生の振り返りにも最適な内容です。是非とも機械設計技術者試験3級取得にチャレンジしてください。

| 交通機械工学科

■■ 航空宇宙システム工学コース ■■ モビリティデザイン工学コース



参加した全12大学及びボーイング関係者の集合写真

米国航空機メーカーであるボーイング社主催の「Boeing Externship University Competition」大会に参加してきました。

当該大会は9月25日、東北大學片平キャンパス(仙台市)で行われ、本学交通機械工学科の学生3名が参加しました。この大会は7回目であり、全国12大学(北海道大学、室蘭工业大学、東北大學、東京大学、東京都立大学、金沢工业大学、岐阜大学、名古屋大学、中部大学、大阪府立大学、九州大学、久留米工业大学)が参加し、航空機産業の革新的技術アイデアを競い合い、全て英語で発表するものです。本学は今回で4回目の参加で、リニアモータを使った電磁カタパルトで小型電動航空機を飛ばす「New Runway System for small electric airplane」と題した発表を行いましたが、惜しくも優勝を逃しました。今回の優勝は、微細藻類を原料とした持続可能な航空燃料(SAF)について発表した北海道大学でした。



| 建築・設備工学科

■■ 建築デザインコース ■■ 設備デザインコース



東京大学大学院へ進学

近年、本学の建築・設備工学科を卒業して大学院へ進学する人が増えてきています。また、進学先も本学の大学院だけではなく、国立大学を含む有名大学の大学院となっています。特に、昨年度は建築・設備工学科の卒業生が、国立大学の最高峰である東京大学大学院へ進学しました。東京大学大学院へ進学したのは、ヤブトラー・ブライアンさんです。彼はインドネシアからの留学生であり、2021年3月に本学の建築・設備工学科を卒業しました。卒業後の2021年4月から2022年3月までの1年間、久留米工业大学の研究生として建築学に関する研究を行いました。その後、2022年9月に東京大学大学院工学系研究科建築学専攻修士課程へ進学しました。現在、ヤブトラーさんは同大学院において、建築設備機器等におけるエネルギー・システムの各要素が故障する可能性を予測し、事前保全を可能にするAIモデルの研究開発に励んでいます。ちなみに、今年度の建築・設備工学科の4年生については、3名が本学大学院へ進学予定です。さらに、熊本大学、長崎大学、大分大学、福岡大学の各大学院へ1名ずつが進学予定です。

| 情報ネットワーク工学科

■■ ソフトウェアコース ■■ ハードウェアコース ■■ ビジュアルコンテンツコース



久留米工業大学【分析コンペ】を開催

ビッグデータの流行によりデータサイエンスの分野は急速な発展を遂げ、様々な場面でデータサイエンスのスキルが必要とされるようになりました。スキル向上のため、世界的に「分析コンペ」が開催されています。そこで、本学でも学生のスキル向上のため、分析コンペを開催いたしました。分析コンペの内容はXのデータに対して、極性判定を行うというものです。極性判定とは内容がポジティブかネガティブかの判定を行うことです。

多くの学生に参加いただき、最終結果として、総合優勝 久保智寛さん(情報1年)、総合2位 星野磨寿さん(機械3年)、総合3位 山口匠さん(情報4年)、特別賞① 森川真菜さん(情報1年)、特別賞② 星野奈々さん(情報1年)の入賞者が決定し、表彰式を行いました。

| 教育創造工学科

■■ 数学コース ■■ 理科コース



教育創造工学科Instagram
開設しました!

@KYOUIKUSOUZOU

教員採用試験12名合格

令和5年7~8月に全国で実施された教員採用試験に、4年生のべ12名(男女6名ずつ)が合格しました。自治体別では、福岡県5名、佐賀県1名、大分2名、熊本2名、鹿児島1名、大阪府1名となります。昨今の教職離れの影響から、教員採用試験の制度が大幅に変更されています。

令和5年から福岡県で大学推薦制度が導入され、各大学10名の推薦枠が設けられました。令和6年の試験からは推薦枠の人数制限が撤廃されます。

今後、大学推薦制度は九州全県に拡がると予想されます。本学科では、大学推薦制度を積極的に活用し、より多くの学生の皆さんのがスムーズに教職に就けるよう支援していく予定です。教育創造工学科在学生の日常をインスタグラムで公開中です。QRコードを読み込んで、ぜひご覧ください。

経済支援育英奨学金および二又奨学金

本学では年に2回、学内奨学金の募集を行っております。募集が開始されましら、学生向け一斉メール、大学HPにてお知らせいたしますのでご確認ください。※本学スカラシップとの重複は不可。

経済支援育英奨学金

応募資格	①経済的理由により学生生活に著しく支障をきたす者。 ②原則として在学中の受給は1回限り。(二又奨学金を受給した者は申請不可。) ③主たる家計支持者の収入が給与収入の場合700万円未満、 事業所得の場合は295万円以下である。 ④2年次以上の学生
奨学金の額	年間授業料の半額(390,000円) ※返還の義務なし
採用人数	前期7名、後期7名程度
募集時期	前期(5月頃)、後期(10月頃)

二又奨学金

応募資格	①学業、人物ともに優秀で、かつ健康であり、学資の支弁が困難と認められる者。 ②原則として在学中の受給は1回限り。(経済支援育英奨学金を受給した者は申請不可。) ③主たる家計支持者の収入が給与収入の場合700万円、 事業所得の場合は295万円以下である。 ④2年次以上の学生
奨学金の額	年間授業料の半額(390,000円) ※返還の義務なし
採用人数	5名程度
募集時期	前期(5月頃)

保護者懇談会(個人面談)開催

保護者懇談会は、保護者の皆様に対し、大学と保護者の皆様との相互理解を深めることを目的に、本学を取り巻く状況、学生の就職状況、修学状況及び学生生活等についての情報交換の場所として、本学と地方会場で開催しております。

これまでコロナ禍により地方会場での開催は見送っておりましたが、本年度は4年ぶりに本学と地方会場(9会場)にて対面による個人面談を開催いたしました。9月16日(土)を皮切りに2週に亘って約350名の皆様に参加いただき、修学状況や就職・進学の相談、本学へのご意見を聞く良い機会となりました。ご多用のところ参加いただきました保護者の皆様には厚く感謝申し上げます。

今後も教職員が一丸となって、学生の皆様のキャンパスライフの充実を目指し、引き続き修学支援・就職支援等に努めてまいります。

開催日	地区名	会場	参加人数
9月16日(土)	福岡	オリエンタルホテル福岡博多ステーション	55名
	佐賀	ホテルニューオータニ佐賀	30名
	大分	大分センチュリーホテル	17名
	長崎	長崎バスターーミナルホテル	18名
	熊本	アークホテル熊本城前	25名
	沖縄	沖縄県市町村自治会館	13名
9月17日(日)	山口	下関グランドホテル	16名
	宮崎	エアラインホテル	18名
	鹿児島	ホテルマイステイズ鹿児島天文館	14名
9月24日(日)	久留米	久留米工業大学	138名
合計			344名

エネルギー・システム工学専攻

電子情報システム工学専攻

モビリティシステム工学専攻

久留米工業大学大学院

進学のススメ



久留米工業大学大学院工学研究科には3つの専攻が設けられています。学部での学びに加えて、自身の専門性を高め、より新しい知識・経験を積み重ねるための機関であり、「研究をより深くおこないたい」「社会で活躍できる人材に成長したい」「自身のなりたい職種につきたい」といった思いを実現する学術機関です。

本学大学院では、令和5年より新しい取り組みを随時スタートさせ、大学院進学を勧めています。

◆大学院副専攻プログラム

「地域課題解決型高度AI教育プログラム」のスタート

学部でのAI教育をさらに高度化した副専攻プログラムを開設し、修了証の授与を行います。

◆大学院科目等履修生制度(本学学部4年生対象)

学部4年次に大学院の科目を受講でき、進学した際にその科目の単位認定ができます。

◆大学院授業料の改定

令和6年4月より授業料等を引き下げます。

◆現行の授業料等

入学料	授業料	教育充実費	実験実習費	委託徴収費	計
220,000円	350,000円	100,000円	60,000円	11,750円	521,750円
	350,000円	100,000円	60,000円	15,000円	525,000円

◆令和6年度からの授業料等

入学料	授業料	教育充実費	実験実習費	委託徴収費	計
0円※1	300,000円	50,000円	60,000円	11,750円	421,750円
	300,000円	50,000円	60,000円	15,000円	425,000円

※1 本学の卒業生以外は110,000円

本学は令和5年に「大学・高専機能強化支援事業」の「高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援(支援2)」に選定されました。本学大学院のこれまでの取り組みとさらに未来に向けた取り組み計画に対して、評価をいただいたことになります。これを受けて、令和6年度の「電子情報システム工学専攻の定員を5名から10名」にし、大学院生の増員を進めています。また令和7年度供用スタート予定の新棟においては、電子情報システム工学専攻修士学生のための研究室が設置され、加えて高性能ノートPCの導入等も計画しており、より充実した研究環境の中、大学院生活を送ることができます。

さらに現在、従来の特別奨学生に加えて、大学院生を対象とした「新しい奨学生制度の検討」を進めています。

2年という短い大学院修士課程ではありますが、学士課程からさらに一歩進んだ教育・研究に関わることで、社会からもより一層求められる人になる期間になると思います。

少しでも興味を持った方は、各学科の教員または教務課はもちろんのこと、大学院に在籍している先輩に気軽に聞いてみましょう。

愁華祭 SHUKASAI

ドロップ ~それぞれのイロを、それぞれのカタチに~



| 座談会参加メンバー 浜浦 健斗さん(4年) 齊田 瑞穂さん(4年) 高椋 章太さん(4年) 橋元 陽生さん(4年)
上野 真緒さん(3年) 藤本 陸斗さん(3年) 井下 佳那さん(1年)

まずは自分たちから準備を楽しみ その「熱」を周囲に拡げていく

—最初に、今回の開催コンセプト「ドロップ」に込めた想いを聞かせてください。

上野:ドロップキャンディって、1つひとつ色や形、味が違っていますよね。人々の多様性を認めて受け入れるべき時代だからこそ、そういう多様性やそれぞれの個性を表現したいと思いました。もう1つは、Eダンスマュージックのサビの部分を「Drop」と呼ぶのですが、今回の愁華祭が音楽のサビ部分のように、最高に盛り上がるものになれば…という気持ちを込めました。

浜浦:私たち4年生は2020年の入学で、学園祭はもちろん色々なイベントに参加できない期間が2年以上ありました。学祭の実行委員長に決まった時、まずは実行委員全員に、大学生らしいワクワクした感じを楽しんでもらい、そこから学祭関係者や来場する方々に、ワクワクした熱が伝播していくような内容を目指しました。

—久しぶりの開催で、予算確保など運営面で苦労した面もあったのでは。

高椋:そうですね、学祭の運営をスムーズにする上で協賛金の獲得が重要になってきます。協賛金が多いほど、色々な使い道が工夫できますからね。出来るだけ多くの協賛を得られるよう、愁華祭のコンセプトや協賛広告の効果について、企業の皆さんに伝えるために色々と工夫しました。地元企業の皆さんには非常に協力的で、感謝の気持ちで一杯になりました。

藤本:私は愁華祭における収支計画などを管理する会計局でしたが、前年度は先輩から指名されて会計を任せられ、今年度は昨年の経験を活かし、自分から手を挙げました。広告収入の状況に関しては、高椋さんと頻繁に連絡を取り合って細かく管理したつもりです。

浜浦:今年度の協賛金目標額は120万円だったのですが、目標金額に近づくのに合わせて『今、100万円達成しました!!』と委員全体に報告するなどで、内部からの盛り上げも図ったんです。

橋元:当日のステージ企画や会場全体の設営などを考えるのが、私たち企画設営局の役割です。当初、大物ゲストを呼んで会場収益も上げる計画でしたが、現実はなかなか厳しく、限られた予算の中でどれだけ効果を高めるかに苦心しました。幸い、「snow jam」という楽曲が大バズりして、大学生・高校生に知名度が高い「Rin音」さんに声かけて、ゲストに迎えられたのは嬉しかったですね。



齊田:私は宣伝担当の情宣局でした。今年度から、ポスターやチラシ以外にSNS系の宣伝活動も始めたのですが、SNS活用に長けている人材が委員会内におらず、とにかく世の中に出ている色々な情報を調べて試行錯誤しました。私自身、SNSは“見るだけ”派でしたが、「久留米ファン」という地域情報サイトがあり、そこにも愁華祭の情報を掲載してもらったりしながら、フォロワーが増えていく過程を考えて取り組みました。

新企画の自動車・バイクイベントを 地元の「年イチ」の楽しみにしたい

—愁華祭当日、苦労したことなどがあれば聞かせてください。

井下:私は、模擬店を出しているサークルやお店のオーナーさんとやり取りする渉内局でした。実行委員の中でも外部の方々とのやり取りが一番多く、意見の食い違いの調整などに配慮していたのですが、当日は申請されていなかったオープンや炊飯器を使用する店が出てきました…。その影響で、ブレークが落ちるトラブルが何度かありました。

上野:今年は、クルマとバイクをメインにしたイベントを開催しました。もともと本学の創設当時は、自動車関連の催しがメインだったという話を聞いていたので、実際にやってみて、地元ショップさんなどが好意的に展示車を出してくださったり、地元の高校生・大学生が熱心に眺めてくれたりして手応えを感じました。今後、地元のクルマ・バイク好きの方々にとって、毎年の楽しみの



令和5年10月14日から2日間、本学の伝統ある学園祭である「第46回 憂華祭」が、コロナ禍を乗り越えて賑やかに開催されました。イベントの企画・運営を担当した約35人の実行委員のうち、中心的存在となったのは、令和2年度入学生（現4年生）たちです。コロナ禍の煽りで、大規模イベントを中止あるいは自粛せざるを得なかった約3年間の“空白”を埋めるため、自分たちはもちろん全ての在学生、そして会場に足を運んでくれた地域の人たちが楽しめるよう、全力を尽くしてそれぞれの役割を果たしたそうです。学祭終了後の気持ちを、代表の7名に尋ねました。



1つになれば良いな…と思っています。

浜浦：あくまでも私個人の感想ですが、当日の運営状況を100点満点で評価するとすれば70点くらいでしょう。会計局、企画設営局など、役割ごとに計5つの局を設けて活動してきたのですが、それぞれの局内でも役職の有無によって、開催に向けたモチベーションの差があったように思えます。全ての

委員のモチベーションを高められてこそ、全体のクオリティも上がるものだと思います。例えばディズニーランドなら、入り口に並んでいる段階から来場者を楽しませようと、キャストたちが配慮するようです。比較するのは変ですが、「来てくれた人を楽しませよう」という想いまで到達できなかった点が、マイナス30点です。

1人ひとりが担当する仕事量が多い分、経験を通じて自分自身が成長できる

—実行委員の活動を通じて、「得られたもの」があれば教えてください。

橋元：今日、ここに集まっているのは、実行委員の中でも、建築・設備工学科のプロジェクトである「ASURA」のメンバーばかりなのですが、我々のプロジェクトが学祭開催に関わったからこそ、コンセプト設定から会場の装飾まで、一貫性のある取り組みが進められたと感じています。開催コンセプトからインスピレーションを受け、上空からカラフルな傘を吊すなど、会場装飾のクオ

リティはASURAならではと実感しましたから、この経験は卒業後も活かしたいと思っています。

齊田：他大学の中には、ポスター等のデザインを外注しているところもあるそうですが、私たちにはポスターだけではなくパンフレットも、メンバーそれぞれが担当して1冊に仕上げました。ASURAの活動を通じてデジタルツールによるデザイン力が身につき、それを学祭に活かした経験は、これからも自分自身の役に立つ感じました。

浜浦：本学は他の総合大学と比較すると規模が小さく、学祭に使える予算も、実行委員として活動できる人数も限られています。ただ、目指しているところは高いので、実行委員1人ひとりが担当すべき仕事量も、どうしても多くなりがちです。その分、得られるものも学べる事柄も多いですし、色々な経験ができます。イベントが終わった後の達成感や充実感も、例えようもなく大きいです。この経験は、間違いなく自分自身の成長に繋がると思えるし、学科を問わず、大学生活の中で「何かやりたい」「授業以外の時間で自分を成長させられる場が欲しい」と考えている本学の後輩たちにも、そのことを伝えたいと思っています。



学業優秀奨学生交付式を行いました

令和5年7月4日(火)に、100号館9階多目的ホールにおいて令和5年度久留米工業大学学業優秀奨学生交付式を行いました。交付式では、今泉学長よりコロナ禍の厳しい環境での努力を称えるとともに、本学のリーダー的存在として、また先行きが不透明な世の中においても、しっかりと道を切り拓いていける人材としてこれから活躍を期待していると、学生たちの励みに繋がる挨拶の後、各学科の代表学生に交付書の授与が行われました。

学業優秀奨学生は、前年度の学修成績が特に優秀な学生に給付される奨学生制度で、今年度は24名の学生が交付を受けました。



学業優秀奨学生		
学 科	学 年	氏 名
機械システム工学科	2	秋山湧斗 野寄海斗
	3	福地祐胤 玉城桜子
	4	牧口尚樹
	2	松本昂大 桑野素良
交通機械工学科	3	田上善隆
	4	井辺大聖
	2	嶋田翔太 篠原美琴
	3	橋本佳奈 江口真鈴
建築・設備工学科	4	石橋享悟 小川友莉亞
	2	安達陽斗 秀達也
	3	高田茜 平田一翔
	4	大杉晃輝 乘越浩大
情報ネットワーク工学科	2	石橋克輝
	3	笹浦泰晟
	4	新畠希実
教育創造工学科		

ボランティア活動報告 災害ボランティア活動に参加しました！

令和5年7月15日(土)16日(日)に、学生と教職員が一体となり、被災された方々の生活環境復旧への支援活動に取り組みました。今回は硬式野球部、ASURA、「久留米災害支援ネット#HASH(ハッシュ)」所属の本学メンバーで構成した学生・教職員が2日間で延べ37名、参加しました。主に、屋内や敷地内の泥のかき出し、家具や室内の拭き掃除、仮置き場への積み込み、運搬などを行いました。復旧にむけてご苦労が続く被災されたご家族や地域の皆さんから感謝の言葉を頂いたことは、たいへん励みになりました。

参加した硬式野球部の学生は、「同じ硬式野球部の部員たちと力を合わせ、粘土状の重い泥のかき出しや瓦礫の片付けを行いました。体力には自信がありましたが、熱中症には気を付けました。この活動で少しでも被災された方々の力になれたらと思います」との感想が聞かれました。



クラブ・サークル活動活動報告

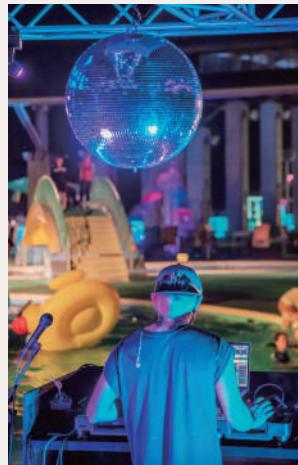
ASURAがナイトプール「2023 Retro」を開催しました！

8月19日(土)と20日(日)に、本学建築・設備工学科プロジェクトのASURAが、グリーンピア八女で「2023ナイトプール Retro」を開催しました。

近年、80～90年代の文化が「レトロ」として若い世代で流行っています。そうしたバブル期の日本の元気の良さや、ディスコ・クラブシーンをイメージしたナイトプールをコンセプトとし、全体をデザインしました。

昨年からナイトプールを開催しており、流水プールなど部分的な照明と装飾のみでしたが、今回はプール全体を照明で照らすことで大きく空間を使い、昼間とは大きく雰囲気を変えることができました。合わせてダンスバトルイベントも同時開催し、昼から夜にかけて多くのダンサー達の多様な表現が本イベントに華を添え、多くのお客様に喜んでいただきました。

これからもASURAは、学生のチカラを主体とした地域活性化や空間表現を積極的に行っていきたいと思います。今後とも、どうぞご期待ください。



学生が選ぶベストティーチャー賞

本賞は、学生による令和4年度を対象とした授業評価アンケートをもとに、高い評価を得た教員を表彰するものです。今年度は以下の5名が表彰され、10月11日(水)今泉学長より表彰状が授与されました。

交通機械工学科 東 大輔 教授

情報ネットワーク工学科 河野 央 教授

教育創造工学科 野田 常雄 准教授

共通教育科 吉谷 修 教授

共通教育科 藤原 孝造 准教授



女子学生オリエンテーションを開催いたしました

今年度2回目の女子学生オリエンテーションを12月15日(金)に開催いたしました。

女子学生オリエンテーションは女子学生と女性教職員の交流を通して、現在関心のあることや将来のキャリアデザインにつながることを気軽に意見交換できる場です。

前回は女子学生専用施設紹介、女性教職員紹介、学生相談室・医務室の利用、ハラスマントへの対応についての説明を行い、また、安心して大学生活を送れるよう困りごとがあった場合は相談できる窓口があることも伝えました。

今回は久留米市保健所健康推進課から講師をお招きして食育教室を開催しました。「今、そしてこれから健康のために～楽しく おいしく みんなで食べよう～」をテーマに「バランスの良い食事と実践」について講話ををしていただき、若い女子の痩せと健康の問題、食事バランスの基本について学びました。その後は終始、和やかな雰囲気でサンドイッチやパンケーキを食べながら、学科・学年の垣根を越えた交流が出来ました。

学生の皆さんのが充実した学生生活を送れるよう教職員一同、サポートしています。



AI応用研究所

100号館 1F

100号館1階、正面出入口から入って左手にAI応用研究所があります。

AI応用研究所は特に久留米地区、筑後地区の産業が抱えている課題に対し、AIというアプローチを探求し、共に解決していくこと、来るべきAI社会に対応できるAI技術者を輩出することを目標に2020年4月に設立しました。設立と同時に当研究所が中心となり、全学的なAI教育を開始しました。

この取り組みは優れたAI教育プログラムだと文部科学省より認定を受けました（「数理データサイエンスAI教育プログラム」リテラシーレベルプラス/応用基礎レベルプラス）。現時点でのレベルでプラスに選定されている大学は4校のみです。



AI技術で地域課題に挑む

AI応用研究所 船木 亮平 准教授

私はこれまで、AIの基礎研究に取り組んできましたが、「現実の課題に対し、AI活用による解決策を模索する」ことを目指すAI応用研究所の実践的な取り組み姿勢に惹かれ、昨年10月に赴任しました。

まだ2ヶ月ほどしか経っていない（※取材時）ので、授業ではPythonの基礎知識と画像認識など、初步的な内容の講義を行っていますが、今後、学生たちのアイデアも取り入れながら、来年度からは複数のテーマに取り組みたいと考えています。

最近は複数の生成AIが気軽に利用できるようになってきたので、学生たちもAI活用に対する“敷居”がグッと低くなっていることでしょう。その一方で、求めている回答・情報を得るために仕組みが理解できていないケースも多いようなので、適切に活用できるように原理からしっかりと指導していきたいと思います。先々はLMM（大規模マルチモーデルモデル）をカスタマイズし、より使いやすい生成AIを開発するような研究にもチャレンジしたいものです。

本学に赴任して以来、地元企業の方々と触れあう機会が大幅に増えました。学生たちとともに、地域社会や地元企業が抱える課題の解決に向けた、AI利活用の新たな手法を開発していきます。



部門紹介

AI応用研究所には5つの部門があります。

◆最新技術調査部門

人工知能は日々世界中の様々な研究機関で開発・発表されています。また人工知能を高速演算するグラフィクスカードも高性能化が進んでいます。それらの動向を調査することで「今」を知る部門です。

◆地域連携・応用部門

久留米・筑後地区は第一次から第三次まで様々な産業が存在しています。そのような地域産業が抱える課題の中にはAI技術で解決できるものもあるかもしれません。そのような地域のニーズを調査し、AIによる解決策を提案する部門です。

◆データ収集・IoT部門

現在のAIの主流である機械学習には大量の教師データが必要です。またAIといつても所詮コンピュータですので状況を知る目や耳、すなわちセンサが必要です。AIを適用するにあたり、どのようにデータを収集し管理するか考える部門です。

◆AI実装・評価部門

例えばある地域課題は、スーパーコンピュータを使って超並列演算でAIを実装すれば解決できるかもしれません。しかしそれはまったく実用性がありません。スーパーコンピュータは単体の価格が高く、機器が占有する空間も大きく、計算時に消費する電力も大きいからです。コストと性能のバランスを取った実装と、その性能評価を行う部門です。

◆AI教育支援部門

内閣府の試算によると、2030年にはIT人材は60万人不足すると考えられています。そのためIT・AI・データサイエンス等に精通する人材育成が急務です。主に学内のAI教育について総合的に見直し、一貫したカリキュラムを設計・実践していく部門です。また、全学的な数理・データサイエンス・AI教育プログラムを担当しています。

地域課題解決型AI教育プログラム

本学のAI教育の中心となっているのがこのプログラムです。地域課題に対して学生自身がAIを利活用して解決を試みます。地域企業や組織の方々と協力し、試行錯誤を繰り返し課題に取り組むことで、実践的な技術力を身に付けることができます。

令和5年8月25日(金)には企業・自治体とともに約半年間かけて試行錯誤してきた成果を発表しました。



学修指導の取り組み【出欠調査】

本学では保護者の皆様との連携により学生へのより適切な教育指導を行うことを目的として、出欠状況調査を行っております。出席率が所定の時間数に充たない学生の保護者の方には調査結果を郵送し、学生本人には学科教員との面談をするよう促しています。

2023年度

前 期	第1回	第2回	第3回
調査対象期間	4月11日(火)～4月24日(月)	4月25日(火)～6月9日(金)	6月12日(月)～7月28日(金)
保護者への郵送	5月中旬	6月中旬	9月中旬
後 期	第1回	第2回	第3回
調査対象期間	9月25日(月)～10月6日(金)	10月10日(火)～11月20日(月)	11月21日(火)～1月26日(金)
保護者への郵送	10月中旬	11月下旬	3月(予定)

※第3回目の発送は試験結果反映後の成績と共に保護者へ郵送

今年度からはKIT-Portal(教学システム)にて、インターネット上で出欠の確認ができるようになりました。詳しくは本学ホームページのFan 第3号(令和5年7月1日号)をご覧ください。

※授業担当教員が登録した出欠状況を確認することができます。



学校法人久留米工業大学へのご支援のお願い

学校法人久留米工業大学は昭和33年の創立以来、人間味豊かな産業人を育成することを目指して教育活動を続けております。そしてこれからも、一人ひとりの若者の夢を大切に育てていきたいと強く願っております。つきましては、企業・卒業生および一般の皆さまより広くご寄付を賜りますようお願いいたします。なお、寄付を賜りました方のお名前を広報誌等に掲載させていただくとともに、学校法人久留米工業大学寄付者ご芳名録に登載して永久に保存させていただきます。

学校法人久留米工業大学への
ご寄付は、申告することにより
**所得税や法人税が
軽減されます。**

学校法人久留米工業大学は、文部科学大臣より所得税法施行令第217条第4号及び法人税法施行令第77条第4号に掲げる公益の増進に著しく寄与する法人(特定公益増進法人)として証明を受けています。

ご寄付の手順は次のようになっております。



①寄付申込書

②資料一式送付

③振り込み



学校法人久留米工業大学 法人本部 財務課

〒830-0052 福岡県久留米市上津町2228の66番地

TEL.0942(22)1234(代表) | FAX.0942(22)1235

寄付金に関する手続き、
申込書のダウンロードは
こちらからできます。



大学探訪

UNIVERSITY PRIVATE INQUIRY

久留米工業大学の施設のご紹介



図書館(学術情報センター)

図書館は約10万冊の書籍を所蔵する開架式図書館です。工学系の専門書や専門誌はもちろん、小説や雑誌、就職対策関係の資料も充実しており、新刊・おすすめコーナー等も設けています。また、ビデオやDVDの鑑賞もできます。

なお、図書館システムが導入されているので、貸し出し手続きや本の検索が簡単にでき、インターネットを介しての検索も可能です。学生に与えられているIDがあれば、自宅からでも図書館の本を検索することができます。さらに、令和6年度からは学外でも電子書籍の閲覧が可能となりますのでぜひ利用してください。



充実の
新刊コーナー



公式SNS



久留米工業大学



kurume_it



kurume_it

